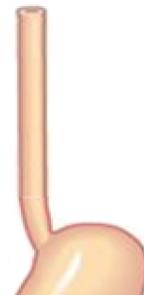




医学コラム 1 食道がん について

☀️ 食道について

食道は、口から胃につながる細長い管（くだ）状の臓器です。食道は体の中心部にあり、気管、心臓、大動脈、肺などの臓器や背骨に囲まれています。食道の働きとして、口から食べた食物を胃に送り、粘液の分泌や重力で下に流れるとともに、筋肉でできた食道の壁が動くことにより胃に食物を送り込みます。



☀️ 食道がんについて

食道がんは扁平上皮がんと腺がんの2つのがんがありますが、わが国の食道がんのほとんどは扁平上皮がんです。食道がんは壁深達度により、粘膜内にとどまるものを早期食道がん、粘膜下層までにとどまるものを表在食道がん、それより深い層に及んでいるものを進行食道がんに分類されます。



早期食道がん



進行食道がん

☀️ 食道がんの症状について

食道がんの初期には自覚症状がないことがほとんどです。早い時期に発見する機会としては、上部消化管内視鏡検査を定期的に行うことが大切です。またがんが進行するにつれて飲食時の胸の違和感、体重減少、背中への痛み、咳、声のかすれなどの症状が出現します。

☀️ 食道がんの検査について

食道がんの精査は主に上部消化管内視鏡検査で行います。食道の内視鏡検査では、粘膜の色や凹凸などを直接観察します。また、がんを疑う病変に対しては、内視鏡で観察しながら鉗子（かんし）と呼ばれる器具で病変の一部を採取（生検）して、顕微鏡による病理診断を行い、がんの有無を調べます。その際にはがんの拡がりや深さを診断しやすくするために、特殊な色素（ヨード色素）を粘膜に散布したり、特殊な波長の光（NBI: Narrow Band Imaging）を使用し、精度の向上に努めています。



通常画像



ヨード色素散布画像



NBI 画像